

# チッパー

## 取扱説明書

### CW-352C



#### も く じ

##### ご使用になる前に

- はじめに ..... 1
- 安全のため必ずお守りください ..... 2
- 各部の名称とはたらき ..... 7
- 使用前の準備と作業前の点検 ..... 8

##### ご使用にあたって

- 走行及び作業のしかた ..... 10

##### 知っておきたいこと

- 定期点検と調節 ..... 14
- 長期格納のしかた ..... 18
- 不調の原因と処置 ..... 18

##### その他

- 仕様 ..... 19
- オプション ..... 19
- 安全確認一覧表 ..... 20

ご使用前に必ずお読みください  
いつまでも大切に保管してください

# はじめに

このたびは、本製品をお買上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書には、本機の正しい安全な使いかた、保守点検などについて記載してあります。本機を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みになって、本機の構造などをじゅうぶんご理解ください。

なお、仕様などの変更により、お求めいただいた製品と、本書の内容やイラストの一部が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お読みになった後、必ず大切に保管し、わからないことがあったときは、いつでも取出してご利用できるようにしておいてください。

## ■ 危険防止

この取扱説明書では、必ず守っていただきたい重要な注意事項について、次のように表示しています。

### 1. 安全のため必ず守っていただきたいこと。

**危険** …… もし守らないと、死亡または重傷事故を引起こします。

**警告** …… もし守らないと、重傷事故を引起こすことがあります。

**注意** …… もし守らないと、負傷事故を引起こすことがあります。

### 2. 機械の損傷を防ぐため必ず守っていただきたいこと。

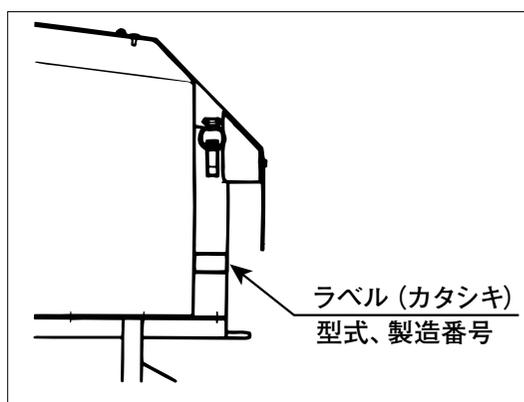
**重要** …… もし守らないと、機械の故障や損傷につながります。

## ■ ご不明な点や不具合がありましたら

本書や本機についてご不明な点や、不具合がありましたら、無理に使用せず、ご購入店または弊社（本書のうら表紙に記載）までお問合わせください。

軽い故障でも重大事故につながる場合がありますので、早期発見に心がけ、早めに整備してください。

故障や不具合が発生したときは、型式名と製造番号を必ずご連絡ください。



### **警告**

- 本機は剪定枝・間伐材破砕用として設計されています。この他の用途には使用できません。
- 改造して使用することは、しないでください。

# ⚠️ 注意 安全のため必ずお守りください

使用前にこの取扱説明書とエンジンの取扱説明書をよく読み、理解する

機械を他人に貸す場合は取扱い方法をよく説明し、あらかじめ取扱説明書をよく読ませる

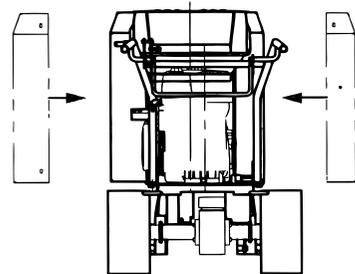
作業に合った服装 (軍手禁止)



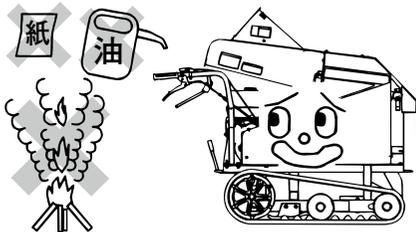
エンジンに附着したゴミなどは常に取除く (火災防止)



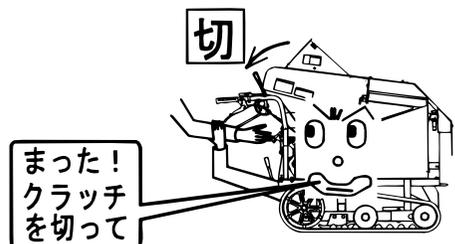
カバーは必ず取付けてから運転



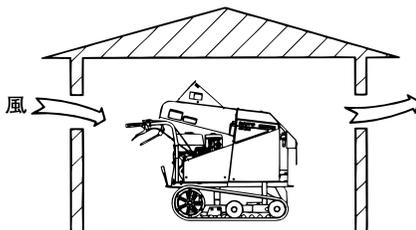
給油はエンジンを止めて、冷えてから、又周囲の火気厳禁



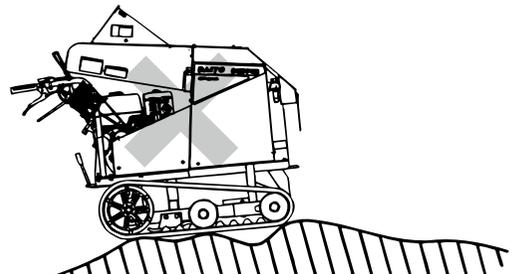
エンジン始動は周囲の安全を確認し、クラッチを切ってから



室内換気の悪い所、暗い所では使用しない (中毒防止)

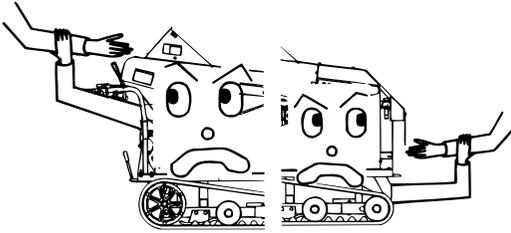


作業は水平でしっかりした場所で



# ⚠️ 注意 安全のため必ずお守りください

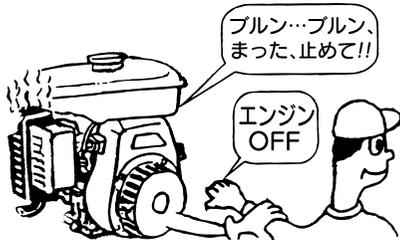
エンジン回転中は供給口や排出口へ絶対に手を入れない



エンジン回転中は人を近づけない



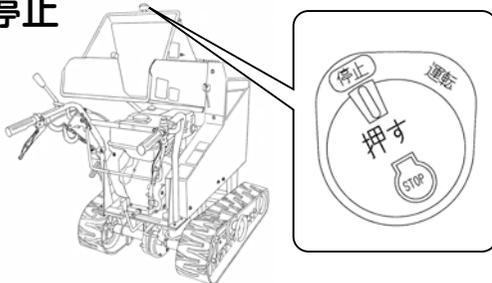
機械から離れる時はブレーキを掛け、エンジン停止し、冷えてから



エンジンの高温部には、絶対手を触れない



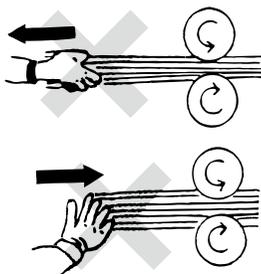
点検や調整時は必ずエンジン停止



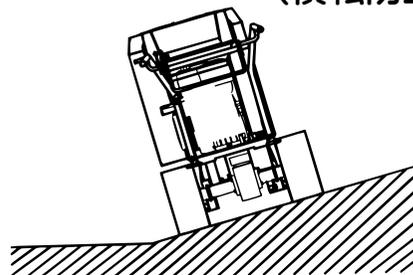
詰まりや異常発生時はすぐにエンジン停止



供給物を無理に引っ張ったり、押し込んだりしない



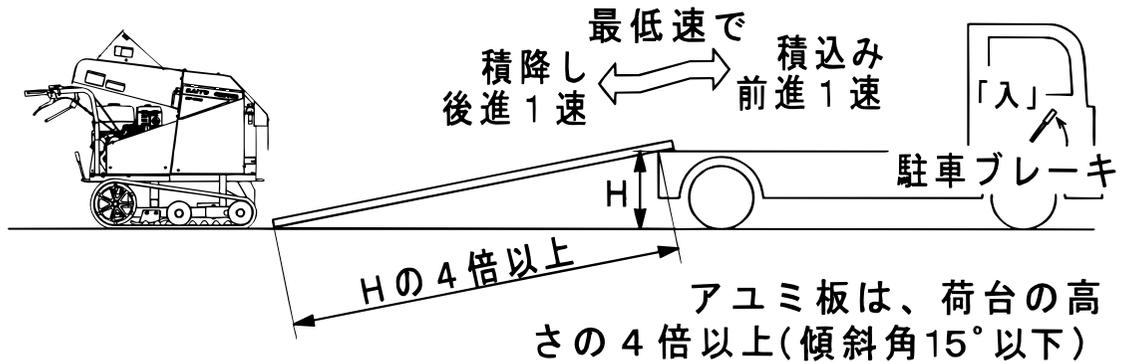
10°以上の傾斜面には乗り入れない  
(横転防止)



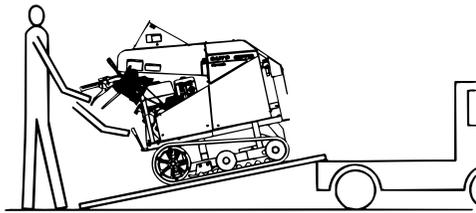
# ⚠️ 注意 安全のため必ずお守りください

排出部をトラックに向ける

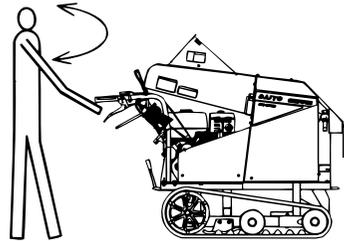
積降し方向厳守



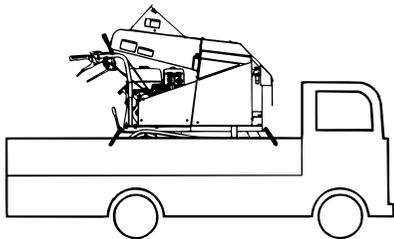
アユミ板上、傾斜地では変速、  
方向操作絶対禁止



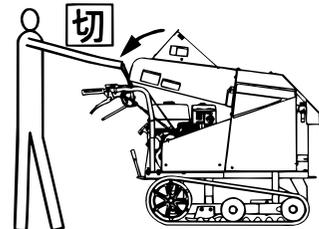
急発進、急旋回禁止、  
周囲の安全確認厳守



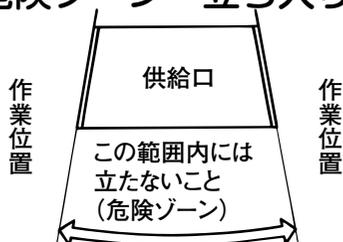
公道走行禁止、トラックで輸送  
ロープで固定



作業中の移動禁止  
作業クラッチを切ってから



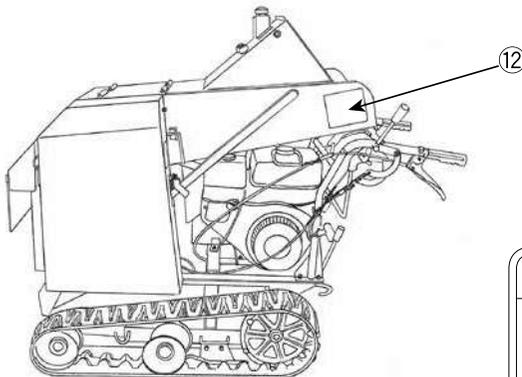
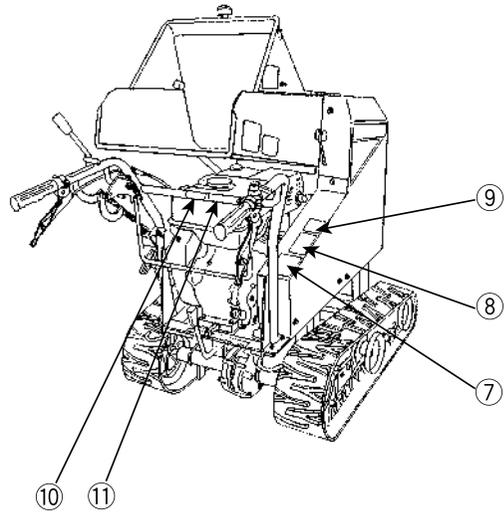
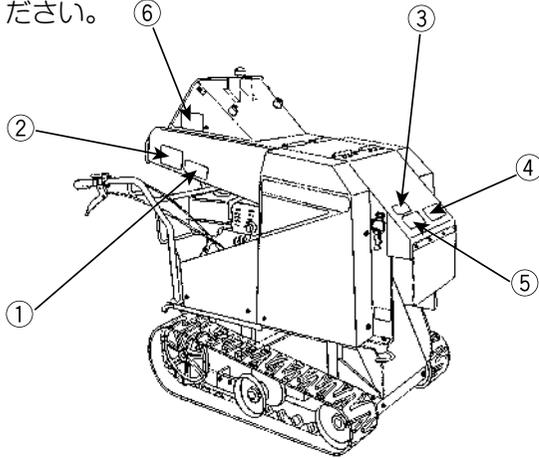
作業位置厳守  
“危険ゾーン” 立ち入り厳禁



# ⚠ 注意 安全のため必ずお守りください

## 使用前に安全ラベルをよく読む

- 本機には次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



① 品番 71131-41171

### ⚠ 注意

1. 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてから使用のこと。
2. 取扱説明書がない場合は取寄せてください。
3. 必ず動力部の安全カバーを取り付けて使用のこと。
4. 点検整備時は、必ず動力を止めること。
5. 点検整備で取り外したカバー類は、必ず元通り取り付けること。

71731-4115-1

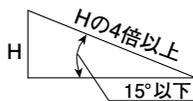
② 品番 71721-61151

### ⚠ 注意

トラックへの積み込み、積み降ろし

1. 積み込みは前進1速、積み降ろしは後進1速でエンジン回転を最低にして行ってください。反対側からの積み込み、積み降ろしは、大変危険ですので絶対に行わないでください。

2. アユミ板は、荷台の高さの4倍以上のものを使用してください。  
(傾斜角15°以下)



71721-6115-1

③ 品番 53981-64321

### ⚠ 注意

中に回転物がありケガをするので、  
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。  
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

53981-64321

# ⚠️ 注意 安全のため必ずお守りください

④ 品番 71131-41151

	<b>⚠️ 警告</b>
	回転中は絶対にカバーを開けないこと。 中の回転刃によりケガをすることがあります。 71131-4115-1

⑤ 品番 71131-41141

	<b>⚠️ 危険</b>
	回転中はこの中に絶対に手を入れないこと。 中の回転刃によりケガをします。 71311-4114-1

⑥ 品番 71131-41131

	<b>⚠️ 危険</b>
	1. 回転中この中に絶対手を入れないこと。 中の回転物に巻き込まれケガをします。 2. 供給口を外したままで使用しないこと。 71131-4113-1

⑦ 品番 71721-61191

	<b>⚠️ 注意</b>
	運転中は手や足をクローラに触れないこと。 クローラに巻き込まれてケガをすることがあります。 71721-6119-1

⑧ 品番 71345-41131

	<b>⚠️ 危険</b>
	換気の悪い所で使用しないこと。 排気ガスで健康を害することがあります。 71345-4113-1

⑪ 品番 71335-41131

<b>⚠️ 注意</b>	発進・後退・旋回は低速で行うこと。 急速発進等は、機械にはさまれたり、押し倒されたりして、大変危険です。 71335-41131
--------------	--

⑨ 品番 71335-41141

<b>⚠️ 注意</b>

エンジンに触れないこと。 ヤケドをします。 71335-41141

⑫ 品番 71721-61131

<b>⚠️ 警告</b>		
1. 作業中供給口の前（危険ゾーン）には立たないこと。 供給物が飛び出し、ケガをすることがあります。 2. 供給作業は、必ず供給口に向かって左側又は右側の作業位置からおこなうこと。		
作業位置		作業位置
この範囲内には立たないこと（危険ゾーン）		
71721-6113-1		

⑩ 品番 71345-41141

<b>⚠️ 注意</b>	エンジンをかけるときは必ずクラッチを「切」にすること。 71345-41141
--------------	--

- ラベルはいつもきれいにし、ハッキリと見えるようにしてください。
- シナーやアセトンなどの溶剤ではふかないでください。文字や絵が消えることがあります。
- ラベルが損傷・破損した場合は新しいラベルと交換してください。
- 安全ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい安全ラベルも取寄せ、取外した部品と同じ場所に貼ってください。

# 各部の名称とはたらき

●**アクセルレバー**  
エンジンの回転数を調節します。

●**サイドクラッチレバー**  
方向を変えるとき使います。

●**走行クラッチ**  
「入」走行、「切」でブレーキが作動します。

●**クローラ**

●**解除レバー**  
供給物がロール部でつまったときに供給物を取り除くためのレバーです。

●**カバー左(安全カバー)**  
内部にチェーンがあります。

●**供給トイ**  
供給物の供給をおこなう案内樋です。

●**排出口**  
破砕物が排出されます。

●**カバー右(安全カバー)**  
内部にVベルトがあります。

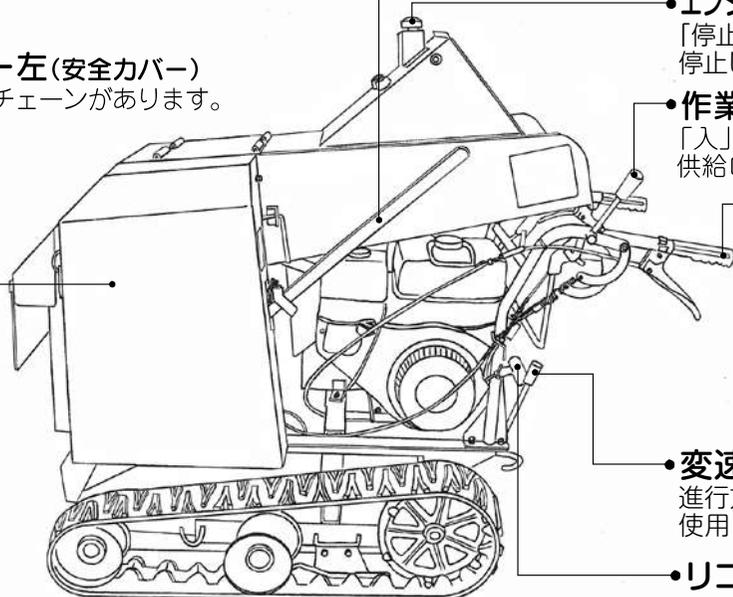
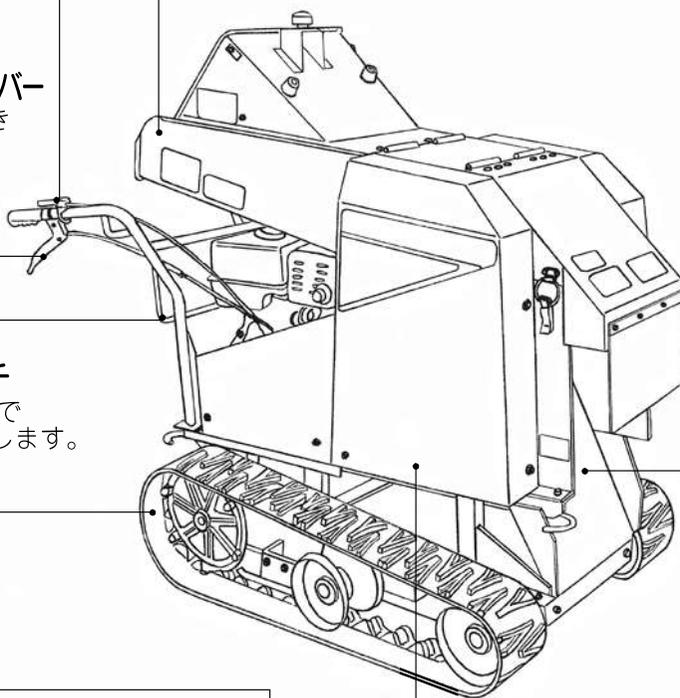
●**エンジンスイッチ(緊急停止ボタン)**  
「停止」にするとエンジンが停止します。

●**作業クラッチ**  
「入」にするとハンマナイフ・供給ロールが回転します。

●**ハンドル**

●**変速レバー**  
進行方向の切換に使用します。

●**リコイルスタータ**  
エンジンを始動するとき引きます。



# 使用前の準備と作業前の点検

## ⚠ 注意

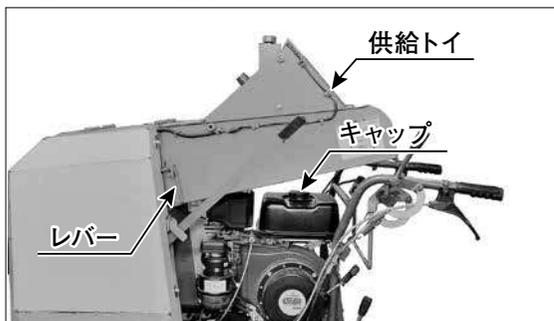
- 準備・点検作業は必ずエンジンを停止しブレーキを掛けた状態で行なってください。

## 1. 燃料の供給・点検

## ⚠ 警告

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止し、完全に冷えてから行なってください。エンジンが熱い間はヤケドや火災の危険があります。
- 火気の近くや、くわえたばこでの燃料補給は絶対にしないでください。火災や爆発の危険があります。

- ① 左右のレバーを上へ上げて解除する。
- ② 供給トイを上げる。
- ③ キャップをあけて燃料を補給する。
- ④ レバーを確実にロックする。



## 重要

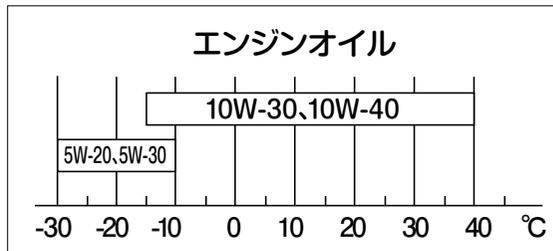
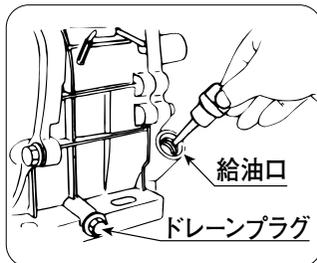
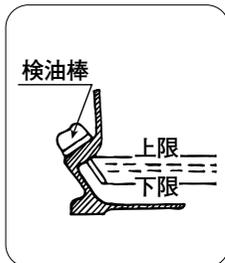
- 燃料は自動車用レギュラガソリンを使用し、それ以外は使用しないでください。

## ⚠ 注意

- 給油後キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

## 2. エンジンオイルの点検と交換

クランクケースのエンジンオイルを点検し、減っていれば上限まで補給してください。



## 定期オイル交換

オイルの交換は1回目20h、2回目以降は100h毎に行なってください。

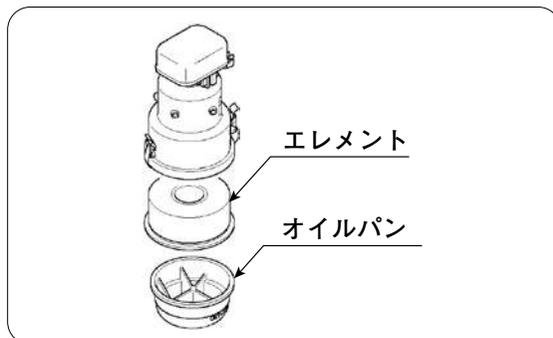
オイルの抜き取りは、ドレーンプラグを外して行なってください。

## 3. エアークリーナーの掃除

毎日作業前にエアークリーナーのエレメントを点検し、汚れていれば掃除してください。オイルが不足しているときは、オイルレベルまで補充してください。

① エレメントを取り外し、灯油又は家庭用洗剤でよく洗い、洗浄液を振り切ってから取り付けます。

② エレメントを掃除するときは同時にオイルパンもよく洗いオイルも交換してください。



## 4. エンジン・チップターの掃除

エンジン・チップター及びその周辺のごみ・ほこりなどを毎日作業前にきれいに取り除いてください。

## ⚠ 注意

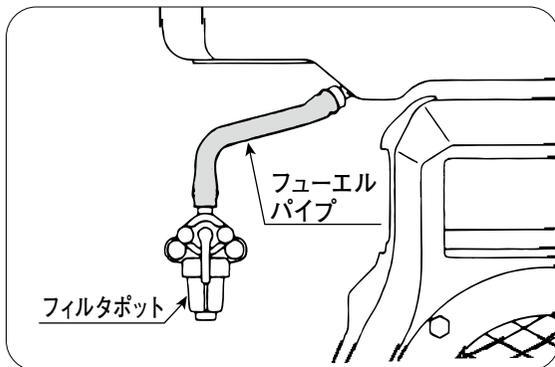
- エンジンの高温部にごみ・ほこりなどがあると火災の原因となります。
- エンジンの冷却風の通路がごみなどでふさがれると、過熱して火災の原因となります。

## 5. エンジンの燃料パイプの点検・交換

エンジンのフューエルパイプ及びゴム類は3年毎（但し、必要に応じ交換）に交換してください。また、パイプ・ホース類が傷んだり、締付けバンドがゆるんでいないか、常に注意してください。

### ⚠ 注意

- フューエルパイプ等の老化・傷により燃料がもれると火災の原因となります。

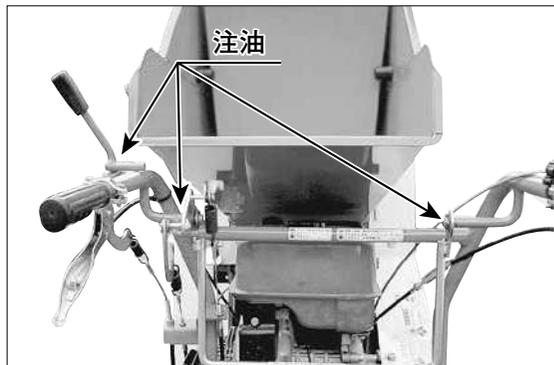
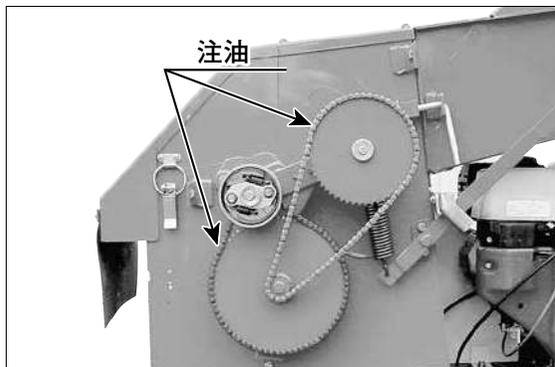


## 6. 燃料フィルタの掃除

フィルタポットにホコリや水などが溜まっている場合は、フィルタポットをはずして、中のこし網をガソリンで洗浄してください。

## 7. 注油箇所

注油箇所……………チェーン、スプロケット  
各レバー支点部



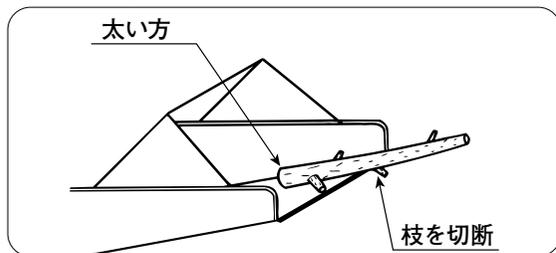
# 走行及び作業のしかた

## 作業条件

- 本機の性能をじゅうぶんに発揮させるため、供給材料の条件を守って作業を行なってください。

材 質	最大処理径
軟質材（杉、桃、ブドウ、桑等）	φ85
硬質材（さくら、梨、柿等）	φ60
ロープ、ヒモ、金属類は供給不可	

- 最大処理径は、およその目安であり保証するものではありません。
- 破砕物を供給するときは、太い方から供給してください。  
又枝等がある場合は、なるべく枝を切断してから供給してください。



## 重要

- 青葉が付いている枝を供給するとスクリーン部で目詰まりする場合があります。

## 注意

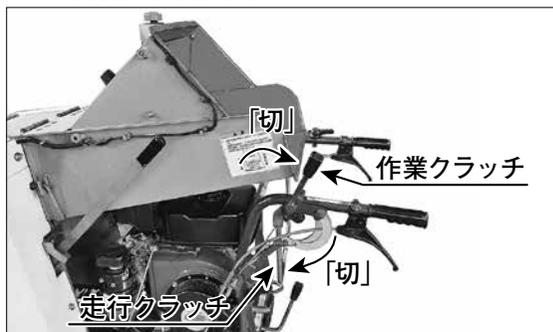
- 本機には照明灯が付いておりません。暗くなってからの作業は行なわないでください。
- 機械を離れるときは必ずエンジンを停止し冷えるまで待ってからにしてください。
- エンジン回転中と停止後10分位はエンジンに触れないでください。ヤケドをします。

## 1. エンジン始動

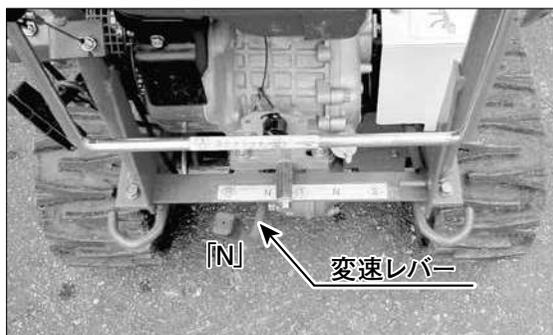
## 注意

- 必ず走行クラッチ・作業クラッチを「切」にしてから始動してください。
- エンジンを始動する時は変速レバーを「N（中立）」にし、各クラッチを「切」にしてください。
- 周囲の安全をじゅうぶん確認してから始動してください。
- カバー類を外したままでエンジンをかけないでください。回転体に巻き込まれてケガをします。

- ①「走行クラッチ」「作業クラッチ」共に「切」にします。

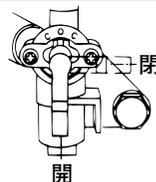


- ②変速レバーを「N」（ニュートラル）の位置にします。



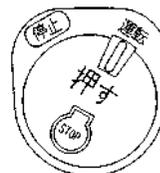
- ③燃料コックを「開」にする。

## 燃料コック



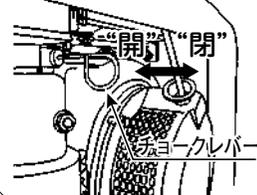
- ④エンジンスイッチを「運転」にする。

## エンジンスイッチ

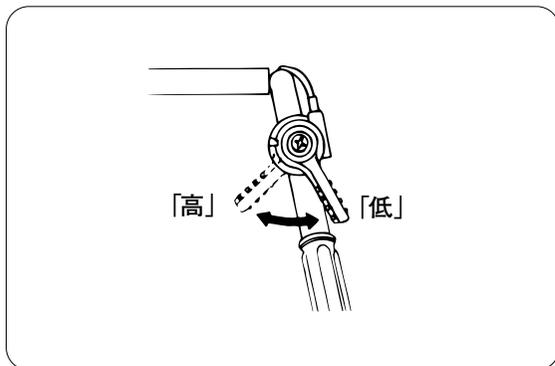


- ⑤チョークレバーを「閉」にする。（エンジンの熱いときは不要です。）

## チョークレバー



- ⑥アクセルレバーを「低」と「高」の中間の位置にします。



- ⑦リコイルスタータハンドルを引き、始動します。始動したらチョークレバーを「開」にする。  
⑧始動後3～5分間は負荷をかけずに低速で暖機運転を行ないます。

## 2. エンジン停止

### 警告

- 緊急時は間を置かずにエンジンの停止操作をしてください。

- ①走行クラッチ・作業クラッチを「切」にする。
- ②アクセルレバーを「低」にする。
- ③エンジンスイッチを「OFF」にする。
- ④燃料コックを「閉」にします。

### 重要

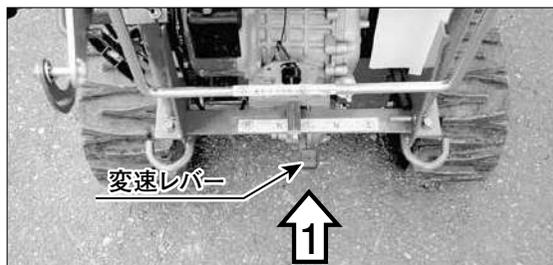
- 緊急時を除いて、アクセル「高」走行・作業クラッチ「入」の状態ではエンジンを停止しないでください。

## 3. 走行

### 注意

- 発進・後退・旋回は低速で行なってください。急発進などは機械にはさまれたり、押し倒されたりして、大変危険です。
- 走行時は必ず作業クラッチを「切」にしてください。
- 本機の前後角度は15°で横転角度は10°です。それ以上の傾斜面には危険ですから乗り入れないでください。
- 走行中は、手放し運転は絶対にしないでください。
- できるだけ凹凸の少ない平坦な場所を選んで移動してください。
- 坂道での変速は絶対しないでください。自重で暴走する危険があります。
- 機械には物を乗せないでください。

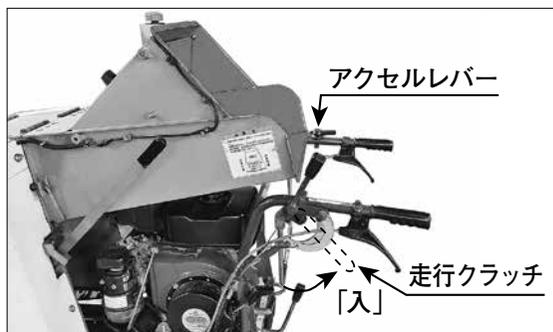
- ①変速レバーを「1（前進）」か「R（後進）」に合わせます。



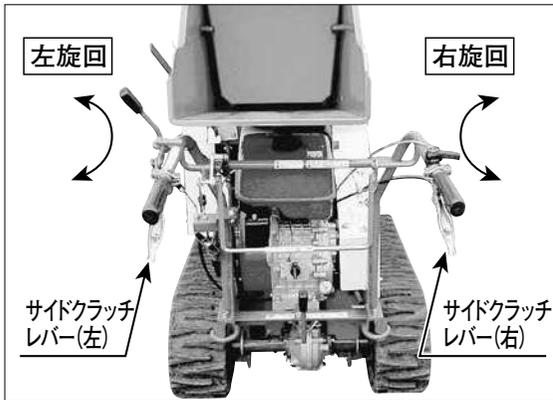
### 注意

- 発進・後退・旋回時は、必ず周囲の安全を確認してください。
- 変速レバーの位置を「2（高速）」で発進させる時は、急発進し大変危険ですので、極力エンジンのアクセルレバーは最低の位置にして行なってください。

- ②走行クラッチをゆっくりと「入」にし、走り出した後、アクセルレバーを上げます。

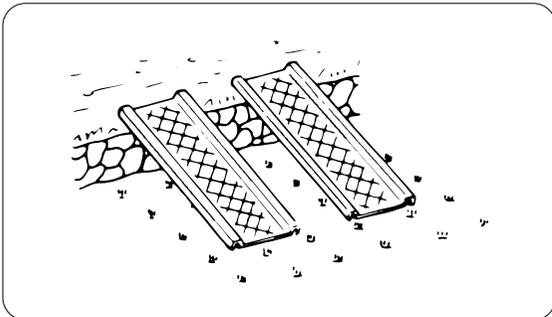


- ③サイドクラッチレバー（右）（左）を操作して方向を変えます。



**注意**

- 段差の乗り越えは、低速で段差に直角に進入してください。5 cm以上の段差、又は、コンクリートの畦畔は必ずあゆみ板を使用してください。
- 作業場所への移動は、必ずトラックで移送してください。公道走行は、交通法規違反になります。



4. 駐・停車

- ①走行クラッチを「切」にし、「ブレーキ」の位置に固定します。
- ②変速レバーを「N（中立）」にします。
- ③スイッチを「切」にします。

**注意**

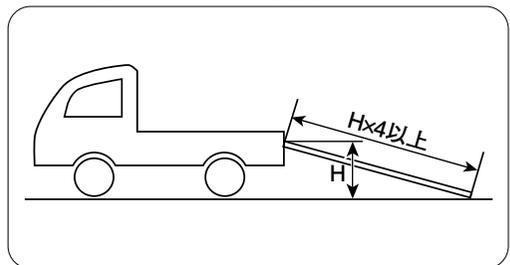
- 機械を離れる時は、なるべく平坦な安定した場所に置き、エンジンを止め走行クラッチを「ブレーキ」の位置にしてください。
- 坂道で駐車するときは、木片などで車止めをして暴走を防止してください。

- 手押し走行する場合は、変速レバーを「N（中立）」にし、「走行クラッチ」を「入」の位置にして移動します。

5. トラックへの積み込み、積降しのしかた

**注意**

- トラックへの積み込み、積降しは大変危険が伴います。手や足をはさまないように、又落下させないようにじゅうぶん注意してください。
- 平坦な場所で作業してください。
- あゆみ板はトラックの荷台高さの4倍以上の長さで、すべり止めの付いた強度300kg以上のものを使用してください。



- 積み込みは前進で、積降しは後進で操向クラッチを使わずに低速で行なってください。
- あゆみ板の上では変速レバーを絶対に変えないでください。機械が落下します。
- 積込んだらエンジンを停止し、燃料コックを「閉」にしてください。
- 運搬中に機械が落下したり移動したりしないよう、走行クラッチを「切」にし、必ずロープ等でしっかりと固定してください。

6. 作業場所の選定

**警告**

- 密閉した又は通気性の悪い場所では絶対に作業しないでください。排気ガスが充満して中毒死するおそれがあります。
- 火気のある所では絶対に作業しないでください。破碎した木片などに引火し、火災のおそれがあります。
- 水平で平坦な場所で作業してください。傾斜地や不安定な所では、作業中に移動したり転倒したりする危険があります。

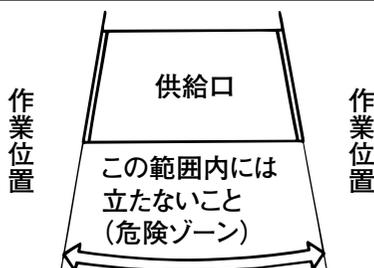
## 7. 破碎作業

### ⚠ 危険

- チッパー回転中は供給口・排出口の中に絶対手を入れないでください。中の回転体で大ケガをします。

### ⚠ 警告

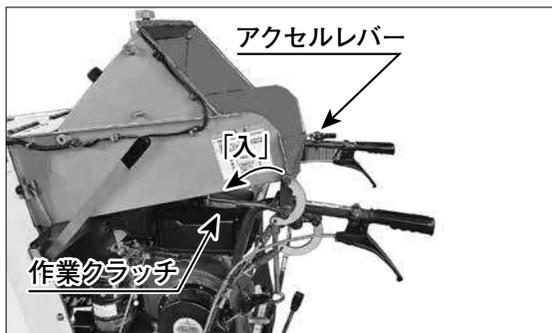
- 作業中供給口の前（危険ゾーン）には立たないでください。供給物が飛び出して来てケガをすることがあります。
- 供給作業は、必ず供給口に向かって左側又は右側の作業位置から行なってください。



### ⚠ 注意

- 必ず保護メガネを着用して作業してください。供給物が飛び出しケガをすることがあります。
- 走行しながらの破碎作業は絶対しないでください。
- 排出口を人や家畜及び火気に向けないでください。破碎物が飛散して傷害事故や火災になることがあります。
- 作業中は周囲に人を近づけないでください。特に子供さん達に注意してください。
- 軍手は使用しないでください。供給ロールに巻き込まれ大ケガの恐れがあります。
- 供給物に異物（石・工具・金属など）が混入しないように注意してください。突発的に思わぬ方向に飛散し、事故につながることもあります。
- 破碎物が排出口部に溜まってきたら移動してください。危険ですから手や足では取り除かないでください。
- 作業中に詰まりなどの異常が発生した場合はすぐにエンジンを停止し、機械の回転が止まってから点検してください。

- ① エンジンを始動する。
- ② アクセルレバーを「高」にする。
- ③ 作業クラッチをゆっくりと「入」にする。



- ④ 破碎物を供給トイに載せ、供給する。

### ⚠ 注意

- ムリに供給物を引っ張ったり押し込んだり、附着物を手で取ったりすることは絶対にしないでください。

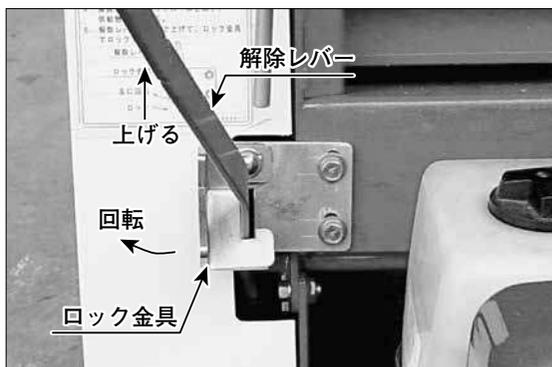
## 8. 詰まりの解除

### ⚠ 注意

- 必ずエンジンを停止し、機械の回転が完全に止まってから行ってください。

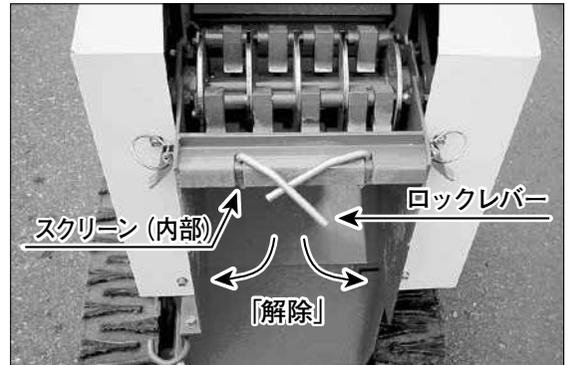
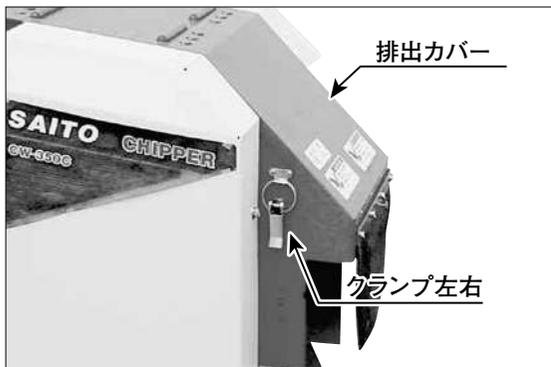
### ■ 喰込みロール部での詰まり解除

- ① 作業クラッチを「切」にする。
- ② エンジンスイッチを「OFF」にし、回転体が完全に止まったのを確認する。
- ③ 解除レバーを持ち上げ、ロック金具を左に回転する。
- ④ 解除レバーを持ち上げてロールを開き、供給物を除去する。
- ⑤ 解除レバーを上まで上げて、ロック金具でロックする。



### ■ハンマナイフ部での詰まり解除

- ①作業クラッチを「切」にする。
- ②エンジンスイッチを「OFF」にし、回転体が完全に止まったのを確認する。
- ③左右のクランプを外し、排出カバーを上を開ける。
- ④スクリーンのロックレバーを解除し、スクリーンを下げても破砕物を除去する。
- ⑤スクリーンを上げてロックレバーでロックし、排出カバーを閉じてクランプで固定する。



## 定期点検と調節

### ⚠ 注意

- 点検・調整は必ずエンジンを停止し、機械の回転が止まってから行なってください。
- 外したカバーは、元通りに組付け、ボルト・ナットは確実に締付けてください。

### 1. 給油・点検調整一覧表

### ⚠ 注意

- オイルの交換・給油は火気のない場所で行なってください。

### ■注油・交換

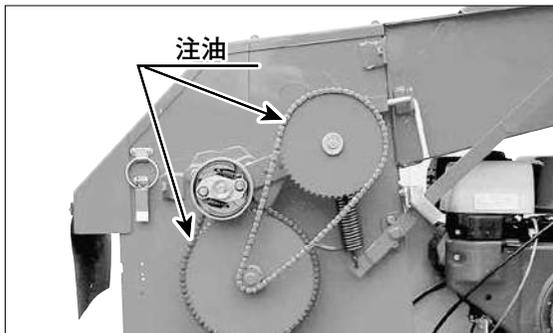
項目	参照ページ	給油・交換時間	オイルの種類	給油量
エンジンオイル	P 8	初回20時間で交換 2回目から100時間で交換	API分類 SD級以上	1.0ℓ
ミッションオイル	—	初回50時間で交換 2回目から200時間で交換	ギヤオイルSAE #90	0.8ℓ
チェーン	P 15	シーズン前とシーズン終了毎に注油	ギヤオイル	適量
走行クラッチ支点	P 15	シーズン前とシーズン終了毎に注油	ギヤオイル	適量
作業クラッチ支点	P 15	シーズン前とシーズン終了毎に注油	ギヤオイル	適量

## ■点検・調節

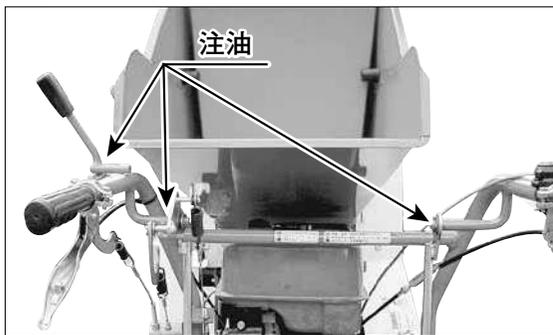
項目	参照ページ	点検調整・交換時間
走行クラッチワイヤ	P 16	20時間毎 ベルト交換時
作業クラッチワイヤ	P 16	20時間毎 ベルト交換時
サイドクラッチワイヤ	P 16	20時間毎
ブレーキワイヤ	P 16	20時間毎
ハンマナイフ	P 16	刃先に丸みが出た時
フューエルパイプ	P 9	3年毎（但し、必要に応じ）交換

## 2. 定期注油箇所

### ①チェーン



### ②走行・作業クラッチ支点部



## 3. ミッションケースのオイル交換

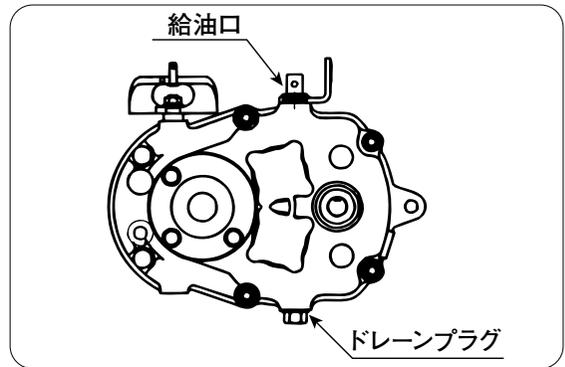
### 定期オイル交換

オイルの交換は1回目50h、2回目以降は200h毎に行なってください。

オイルの抜き取りは、ドレーンプラグを外して行ない、給油口から給油してください。

### 重要

- ミッションオイルを補給・交換するときは、給油口の周りをきれいにしてください。ミッションケース内に泥などが混入すると、故障の原因になります。



## 4. チェーン、ワイヤの張り調節

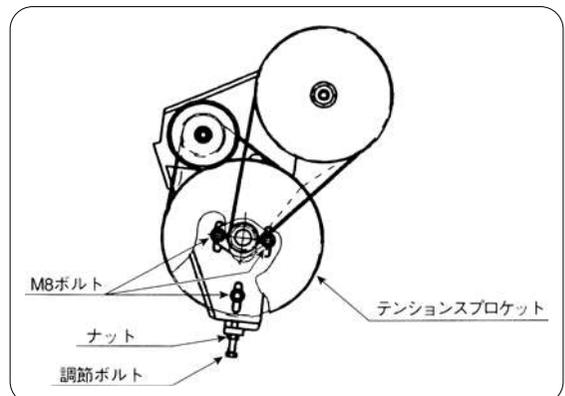
チェーン、ベルトに山越え、スリップなどが発生する場合に調節してください。

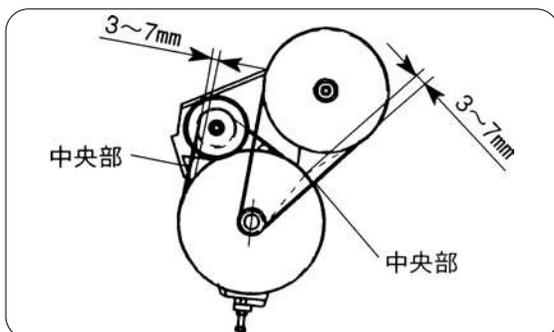
強く張り過ぎますと耐久性が低下しますのでご注意ください。

### ■ロール駆動チェーン

テンションスプロケットを固定しているM8ボルト（3箇所）とナットをゆるめ、中央部を5kgの荷重で表記寸法になるように調節ボルトで調節してください。

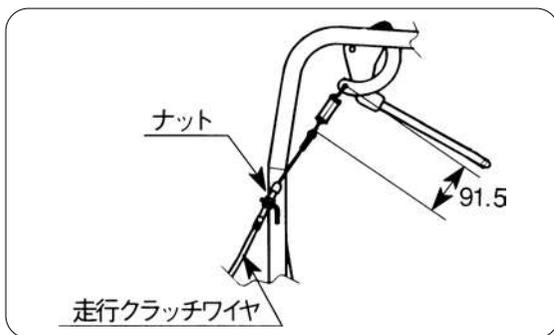
調節後はゆるめたナット、ボルトを締め付けてください。





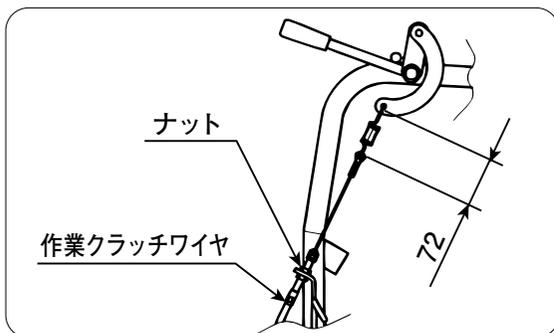
### ■走行クラッチワイヤの調整

走行クラッチワイヤのアウタを固定しているナットをゆるめスプリングのフック内側の長さが91.5mmになるように張り調節してください。



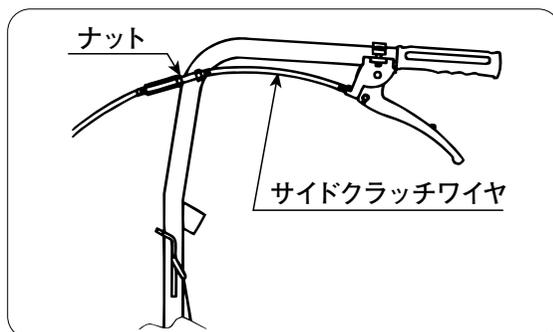
### ■作業クラッチワイヤの調整

作業クラッチワイヤのアウタを固定しているナットをゆるめスプリングのフック内側の長さが72mmになるように張り調節してください。



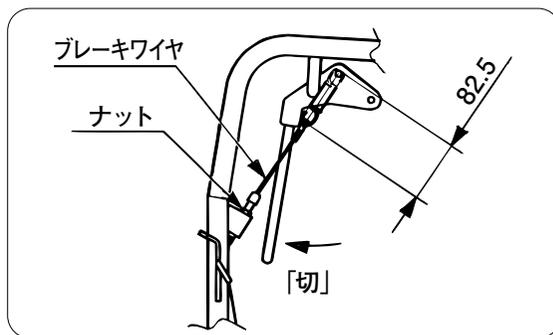
### ■サイドクラッチワイヤの調整

ある程度使用すると、ワイヤが伸び、クラッチの切れがわるくなることがあります。クラッチが切れるよう、アウタのナットで調節してください。



### ■ブレーキワイヤの調整

走行クラッチを切り「ブレーキ」位置にして、スプリングのフック内側の長さが82.5mmになるように張り調節してください。



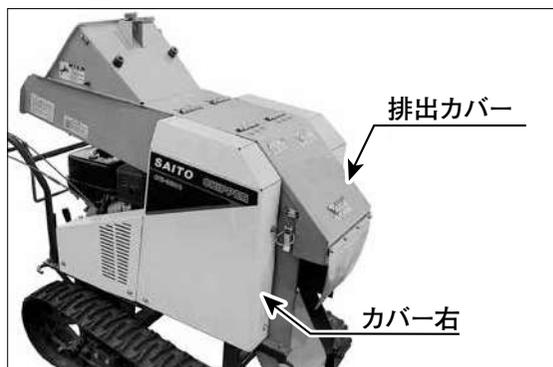
## 5. ハンマナイフの点検・交換

### ⚠ 注意

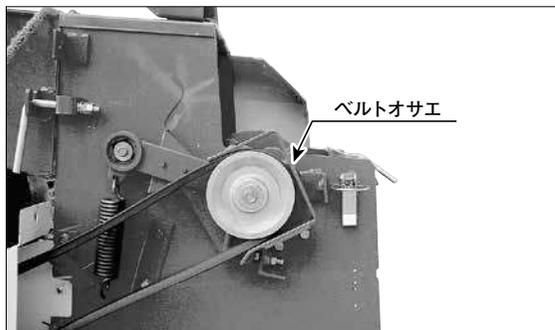
- ハンマナイフの点検・交換は革手袋などを着用して行なってください。刃先でケガをすることがあります。

### ■ハンマナイフの交換

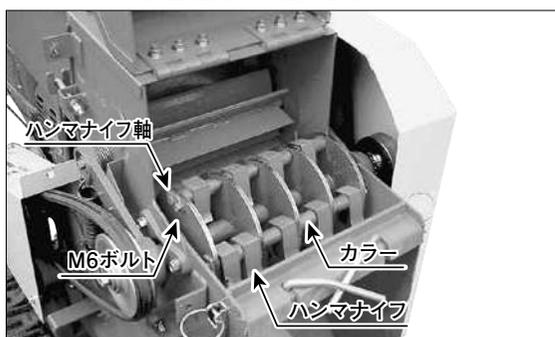
- ハンマナイフの刃先に丸みが出てきましたら交換してください。
- ①カバー右を外す。
  - ②排出カバーを開ける。



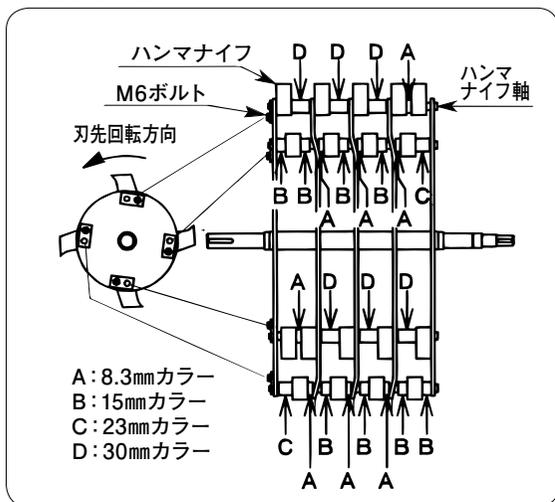
③ベルトオサエを外す。



④ハンマナイフ軸を固定しているM6ボルトを外し、ハンマナイフ軸を抜きながらハンマナイフとカラーを外す。



●取付けは、下図を参照にし、刃先方向を間違えないようにして取り外しの逆の順で組み付けてください。



## 6. 点火プラグの点検・清掃・調整



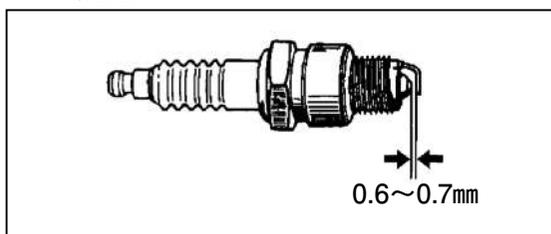
**警告**

- 点火プラグの取り外しは、エンジンが冷えてから行ってください。

**重要**

- 点火プラグの電極が溶けてすき間が広がったり、カーボンが付着したり、碍子（ガイシ）部が損傷したりするとエンジンの不調の原因となります。

- ①プラグレンチで点火プラグを外してください。
- ②点火プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナ、又はワイヤブラシなどで汚れを落としてください。
- ③電極のすき間が広いときは、市販のすき間ゲージなどを用いて0.6～0.7mmに調整してください。



**重要**

- 点火プラグを交換するときは、必ず同じ型式のものを使用してください。異なったプラグを使用すると、失火や始動不良を起こす恐れがあります。

点火プラグ型式

NGK BP5ES

# 長期格納

## ⚠ 注意

- 機械の保管中に子供さん達が近よらないよう注意してください。
- 機械は転倒しないような安定した場所で火気類のないところに保管してください。

- ① 各部に付着した泥、木屑などの汚れをきれいに水で洗い落とし、そのあと水分が残らないようにふき取ってください。
- ② 機体が乾いた後、油布で各部を手入れしてください。
- ③ 定期注油箇所に注油し、ハンマナイフを油ぶきしてください。又日頃注油していない各回転部・支点・カバー内のテンションアーム支点部にも注油し、錆びないようにしてください。
- ④ 雨風のあたらない乾燥した場所へ保管してください。
- ⑤ エンジンについてはエンジンの取扱説明書をご覧ください。

# 不調の原因と処置

## ⚠ 注意

- 点検・調節は必ずエンジンを停止し、機械の回転が止まってから行なってください。
- 外したカバーは、元通りに組付け、ボルト・ナットは確実に締付けてください。

現 象	原 因	処 置	参照ページ
供給物が食い込まない	枝が太い	細い枝にする	10-1
	供給量が多い	供給量を減らす	—
	枝が供給口に引っ掛かっている	枝を落として供給する	10-1
破碎部で詰まる	枝が太い	細い枝にする	10-1
	回転数が低い	回転数を「高」にする	13-7
	破碎部駆動ベルトがスリップしている	作業クラッチワイヤを調節する	15-4
クローラが動かない	変速レバーが確実に入っていない	「前進」又は「後進」に変速レバーを確実に入れる	11-3
	走行ベルトがスリップしている	走行クラッチワイヤを調節する	15-4
ブレーキがきかない	ワイヤが伸びている	ブレーキワイヤを調節する	15-4
エンジンがかからない	スイッチが「OFF」になっている	スイッチを「ON」にする	10-1
	燃料がない	燃料があるか点検し、ない場合は補給する	8-1
	燃料コックが閉まっている	燃料コックを「開」にする	10-1
スイッチを「OFF」にしても、エンジンが停止しない	スイッチが接地（アース）されていない	スイッチが接地（アース）されているか確認し、されていなければ接地（アース）する	—

# 仕 様

型 式		CW-352C
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1 4 8 0
	全 幅 (mm)	7 1 3
	全 高 (mm)	1 2 4 0
質 量 (km)		2 3 9
最大処理能力 (mm <sup>3</sup> /h)		3. 0
最大破砕径 (mm)		85 (軟質材)、60 (硬質材)
主軸回転数 (rpm)		3 1 0 0
破 砕 方 式		フリースイングハンマ
走行速度 (km/h)		クローラ自走式、前進1.73、4.0・後進1.8
搭 載 エンジン	種 類	空冷4サイクルOHVガソリンエンジン
	最大出力 (kw 《PS》)	7. 3 《10》

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

※最大処理能力、最大破砕径は破砕物の材質及び形状、作業条件等により変動します。

## オプション

この機械には次のオプションがあります。もよりの販売店・農協でお求めのうえご使用ください。

### ■スクリーン (アラメ)

- 青い葉付き又は軟質材 (杉、桃、ブドウ、桑等) の生材等で標準のスクリーンが早期に目詰まりする場合に使用します。

品 番	品 名
71729-9111-2	スクリーン(アラメ)

# 安全説明確認カード

説明者(販売店・農協)控

年 月 日

私は説明員から安全についての説明をききました。

ご使用者住所

氏名



販売店・農協名

担当者

型式

製造番号

## 【基本事項】

チェック

1. 作業管理者を決めること。	
2. 作業に適した健康人であること。	
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。	
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。	
5. 不当な改造をしないこと。	

## 【作業について】

チェック

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。	
2. 作業場所の換気と明るさに注意をはらうこと。	
3. 作業に合った服装で行なうこと。 軍手は使用しないこと。	
4. 毎日作業前にエンジン・チップーの点検・掃除を行なうこと。	
5. 燃料補給時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>必ずエンジンを停止し、冷えてから行なうこと。</li><li>火気の近くやくわエタバコでは絶対に行かないこと。</li><li>キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふきとること。</li></ul>	
6. エンジン始動時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>カバー類を必ず取付けること。</li><li>周囲の安全を確認すること。</li><li>必ずクラッチを切ること。</li></ul>	
7. 発進・旋回はエンジン回転を低速にして行なうこと。	
8. 走行中絶対チップーを回さないこと。	
9. 走行中手放し運転は行わないこと。	
10. 機械に荷物を載せて運搬車として使用しないこと。	
11. 坂道の途中では変速レバーの操作を行わないこと。	
12. 機械から離れる時は必ずエンジンを停止し、冷えるまで待つこと。	
13. やむなく傾斜地に置くときは必ず車止めをすること。	

チェック

14. 本機の前後角度は15°で横転角度は10°です。それ以上の傾斜面には危険ですから乗り入れないこと。	
15. トラックなどへの積み降し作業時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>水平で平坦な場所で行なうこと。</li><li>じゅうぶんな強度と長さ(乗せる高さの4倍以上)のすべり止めのついたあゆみ板を使用すること。</li><li>積み降しは低速で行ない、途中での変速レバーの操作はしないこと。</li></ul>	
16. 破砕作業は水平でしっかりと安定した火気のない所で行なうこと。	
17. 破砕作業は保護メガネを着用して行なうこと。	
18. 刃物回転中は供給口・排出口の中に絶対に手を入れないこと。	
19. 排出口を人や家畜、火気に向けないこと。	
20. 破砕作業及び駐車時は走行クラッチを必ず「切」にすること。	
21. チップー回転中は周囲に人を近づけないこと。	
22. 作業に異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止すること。	
23. 供給物に異物が混入しないように注意すること。	
24. エンジン運転中と停止後10分間はエンジンに触れないこと。	
25. 破砕作業時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>作業中供給口の前の(危険ゾーン)には立たないこと。</li><li>供給作業は、必ず供給口に向かって左側又は右側の作業位置から行なうこと。</li></ul>	

## 【点検・格納について】

チェック

1. 点検・調整はエンジンを停止し、機械の回転が止まってから行なうこと。	
2. ハンマナイフを点検・整備するときは、革手袋を着用すること。	
3. 保管中には子供たちに触れさせないこと。	
4. 水平で火気類のないところに保管すること。	



# 安全確認一覧表

## 【基本事項】

1. 作業管理者を決めること。
2. 作業に適した健康人であること。
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。
5. 不当な改造をしないこと。

## 【作業について】

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。
2. 作業場所の換気と明るさに注意をはらうこと。
3. 作業に合った服装で行なうこと。軍手は使用しないこと。
4. 毎日作業前にエンジン・チップターの点検・掃除を行なうこと。
5. 燃料補給時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●必ずエンジンを停止し、冷えてから行なうこと。</li><li>●火気の近くやくわえタバコでは絶対に行なわないこと。</li><li>●キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふきとること。</li></ul>
6. エンジン始動時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●カバー類を必ず取付けること。</li><li>●周囲の安全を確認すること。</li><li>●必ずクラッチを切ること。</li></ul>
7. 発進・旋回はエンジン回転を低速にして行なうこと。
8. 走行中絶対チップターを回さないこと。
9. 走行中手放し運転は行なわないこと。
10. 機械に荷物を載せて運搬車として使用しないこと。
11. 坂道の途中では変速レバーの操作を行なわないこと。
12. 機械から離れる時は必ずエンジンを停止し、冷えるまで待つこと。
13. やむなく傾斜地に置くときは必ず車止めをすること。
14. 本機の前傾角度は15°で横転角度は10°です。それ以上の傾斜面には危険ですから乗り入れないこと。
15. トラックなどへの積み降し作業時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●水平で平坦な場所で行なうこと。</li><li>●じゅうぶんな強度と長さ（乗せる高さの4倍以上）のすべり止めのついたあゆみ板を使用すること。</li><li>●積み降しは低速で行ない、途中での変速レバーの操作はしないこと。</li></ul>
16. 破砕作業は水平でしっかりと安定した火気のない所で行なうこと。
17. 破砕作業は保護メガネを着用して行なうこと。
18. 刃物回転中は供給口・排出口の中に絶対に手を入れないこと。
19. 排出口を人や家畜、火気に向けないこと。
20. 破砕作業及び駐車時は走行クラッチを必ず「切」にすること。
21. チップター回転中は周囲に人を近づけないこと。
22. 作業に異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止すること。
23. 供給物に異物が混入しないように注意すること。
24. エンジン運転中と停止後10分間はエンジンに触れないこと。
25. 破砕作業時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●作業中供給口の前（危険ゾーン）には立たないこと。</li><li>●供給作業は、必ず供給口に向かって左側又は右側の作業位置から行なうこと。</li></ul>

## 【点検・格納について】

1. 点検・調整はエンジンを停止し、機械の回転が止まってから行なうこと。
2. ハンマナイフを点検・整備するときは、革手袋を着用すること。
3. 保管中には子供たちに触れさせないこと。
4. 水平で火気類のないところに保管すること。

## 純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正オプションを使いましょう

純正オプションは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使ってください。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。



株式会社 齋藤農機製作所

- 本社・工場 〒998-0832 山形県酒田市両羽町332番地  
TEL0234(23)1511(代) ファクシミリ0234(26)4161
- 北海道営業所 〒079-0181 北海道岩見沢市岡山町18番地  
TEL0126(24)5401(代) ファクシミリ0126(24)5402
- 九州営業所 〒861-8039 熊本県熊本市東区長嶺南1丁目1番10号  
TEL096(384)6865(代) ファクシミリ096(384)6864

品番 71737-7111-1